

道路行政セミナー2016年10月号 NO.097 2016年10月31日発行

ポイント

◆◆特集◆◆

★熊本地震の復旧状況（NEXCO 西日本の取組み）★ （NEXCO 西日本）

熊本地震の発生から約6ヶ月が経過し、順次、復旧作業が完了しております。NEXCO 西日本グループでは、総力を挙げて鋭意復旧作業を進めておりますが、全ての復旧作業を完了させるまでには、まだまだ相当な期間が必要となります。本稿では、地震の発生から初動対応、高速道路の被害の把握から応急復旧、現在の復旧工事の事例等、一連の震災復旧対応についてまとめましたのでご紹介します。

◆◆道路法令Q&A◆◆

★道路交通に支障を及ぼす私人の行為の制限について★ （国土交通省 道路局 路政課）

道路交通に支障を及ぼす私人の行為の制限について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★新名神高速道路（四日市JCT～新四日市JCT） 東海環状自動車道（新四日市JCT～東員IC）の開通★ （NEXCO 中日本 名古屋支社 建設事業部）

平成28年8月11日に新名神高速道路 四日市JCT～新四日市JCT間4.4km及び東海環状自動車道 新四日市JCT～東員IC間1.4km計5.8kmが開通した。開通区間の概要及び工事の特徴、ストック効果について紹介する。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★特殊車両通行許可制度★

—審査体制の集約化における現状—

(中国地方整備局 広島国道事務所 管理第一課)

道路管理者は、特殊車両通行許可制度に基づき道路保全を図りながら通行許可審査事務を行っている。しかし、特殊車両及び許可制度についてはあまり知られていないものと感じられる。そこで本稿は、特殊車両と許可制度について、そして平成27年度に審査体制に大きな転換があった広島国道事務所の審査体制の集約化の紹介を行うものである。

.....

★村が待ち望んだ「生命(いのち)の道」★

～一般国道139号<松姫バイパス>開通に伴う整備効果～

(山梨県 県土整備部 道路整備課)

一般国道139号線は、大月市と小菅村を結ぶ唯一の生活幹線道であるものの、大雨や積雪等による通行止めが高頻度で生じることから、県内市町村へ通じるバス路線がないなどの地域課題が存在していた。「一般国道139号松姫バイパス整備事業」は、地域が抱えていたこれらの問題の解消を目的とし、高速道路も含めて道路トンネルとしては県内第3位の総延長を誇る全長3,066mの「松姫トンネル」を含む2つのトンネルと4つの橋梁による道路規格第3種第3級、総延長3,800mのバイパス事業である。本稿では、当該事業についての事業背景とともに、開通に対する地域の反応、整備効果についてご紹介します。

.....

★環状交差点(ラウンドアバウト)の実施★

(富士川町 土木整備課)

北新町1号線交差点は、朝夕は小中学校へ通う児童生徒の通学路並びに通勤車両等の通行が多く、近隣には医療機関である「富士川病院」や住宅街・県営及び町営住宅もあり、過去には交通事故も発生している交差点であったことから、信号機設置を望む声が多くありました。しかし、現実には交通量の問題もあり信号機設置の実現には至りませんでした。このような状況の中、交通量の少ない交差点で信号機が無くても安全かつ円滑な交通と重大事故の削減が期待できる環状交差点「ラウンドアバウト」を取り入れることとしました。

本稿では、この環状交差点(ラウンドアバウト)の実施についての事業概要について報告します。

◆◆編集後記◆◆

身体の健康を気につけ、年に1度健康診断を受診していますが、ここ数年、歯の健康に気をつけることなく過ごしていた結果、食事中に奥歯の一部が欠けてしまいました。これは治療に行かなければと思ったものの、歯科医院の独特の匂いや雰囲気を思い出すと、痛みの記憶がよみがえり、なかなか予約をする勇気が湧きませんでした。しかしながら、子供のころからむし歯が多く、その痛さを十分に心得ていることから、しぶしぶ歯科医院に足を運ぶことにしました。

欠けた歯の治療は計3回の通院で終了したので、しばらくは通わなくて良いだろうと思っていたところ、治療した歯以外のメンテナンスを強く勧められてしまいました。10年以上も前に治療した歯を診てもらったところ、銀歯と歯茎の間に隙間ができていたり、黒ずんできた箇所もあるとのことで、新たなむし歯の可能性もあるとのことでした。また、自分の歯を今後も大切にするのであれば、新しいものに換えていく必要があるという治療方針の説明を受けました。週に一度、定期的に通うのが面倒と感じた一方で、私以上に歯のメンテナンスをおざなりにしていた知人は、数年前に歯の一部を入れ歯にすることとなり、モノが挟まって痛みを感じたり、じっくりハマらなかつたりと、美味しいものを美味しくいただくことができないという話をしていたことを思い出しました。

1989年より、厚生省(当時)と日本歯科医師会によって、80歳になっても20本以上自分の歯を保とうという「8020(ハチマルニイマル)運動」が推進されています。「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動で、生涯にわたって自分の歯でモノを噛むことを意味しています。歯の本数と食品を噛む(咀嚼)能力に関する調査によれば、概ね20本以上の歯が残っていれば、硬い食品でもほぼ満足に噛めることが科学的に明らかになっているようです。通常、永久歯は28本ありますが、中学生の時から2本の義歯がある私にとっては、危機感を感じざるをえません。

私たちの生命は、食べることによって支えられており、食べるためには、言うまでもなく歯が必要となります。確かに、治療の過程で詰め物や仮歯が施される場合には、これまでどおりに噛めず、食事を楽しめない時もあります。この編集後記の作成中にガムを噛んでいたら、仮歯が取れるというハプニングに見舞われたことから、健康な歯があつてこそ、美味しい食事を楽しめるということを、改めて感じています。食欲の秋、あちらこちらで、美味しい季節の食材を見かけるようになりました。いつまでも自分の歯で美味しいものを美味しいといただけることは、身体の健康の維持だけではなく、気持ち豊かな生活が送れることと思います。そのためにも、8020運動の実践編として、健診やメンテナンスを継続し、定期的に歯科医院に足を運ぼうと思います。今年、自身にとっての歯のメンテナンス元年となったようです。(U)